

令和7年度 東通村 冬期インターンシップ



成果報告会での奈良さん[㊦]、新谷さん[㊦]、山本さん[㊦]



JAPPA社員と思い出の一枚



2月26日 成果報告会の参加者と記念撮影(手の“J”はJAPPAのポーズ)

東通村では、外部人材の受入れを行い、外からの目線で地域活性化を行う事業として、インターンシップ事業を行っており、令和8年2月2日から27日までの約1ヵ月間、青森県内から3名の学生が参加しました。

今回の冬期インターンシップは、村内で設立したばかりの企業に入り込み、『ドキュメンタリー動画作成』・『社員のプロフィール作成』等のミッションで実施しました。その成果を発表するため、2月26日に東京電力nooqu OFFICEのくのく広場を会場に成果報告会を開催しました。

今回学生を受入れていただいたのは合同会社JAPPAで、村地域おこし協力隊OBの亀尾 喬さんが代表社員を務め、未利用魚の加工や販売、販路開拓などを行う会社で、亀尾さんや村内の漁師などを含めた7名の社員で運営しています。

インターン生は、インタビューのアポイントや質問内容の整理・まとめ、活動のスケジュール管理を行うなど、学生生活ではなかなか経験できないことに取組み、社会に出るための勉強をしました。

夏のインターンシップに引き続き2回目の参加となった青森公立大学1年の奈良 ^{みづき} 瑞己さんは「夏と冬で村の表情が違い、改めて東通村の魅力を肌で感じる事ができました。前回もインタビューをしましたが、改めて人への質問や話題作りの難しさを実感しました。」と話しました。

今回が初めてのインターンシップ参加となった同大学1年の新谷 ^{みみ} 美海さんは「初めてのことでばかり緊張しましたが、日々課題に取り組む中で、何かを成し遂げるのにどれだけの準備と時間が掛かるのか身を持って知ることができました。また絶対来たいです！」と話しました。

長期インターンシップへの参加は初めてとなる青森大学3年の山本 ^{そうき} 颯稀さんは「来年から就職活動も始まるので、沢山のことを吸収したいと思って参加しました。ミッション達成に向けて協力した仲間や支えて下さった周りの方々に心から感謝したいです。」と話しました。

3人には、このインターンシップの経験を糧に、今後の学生生活での更なる活躍を心より願っています。

東通村は地域の活性化や関係人口の創出を目指し、引き続きインターンシップ事業に取り組んで参ります。